

## 第3回 神田警察通り周辺まちづくり検討部会

### 次 第

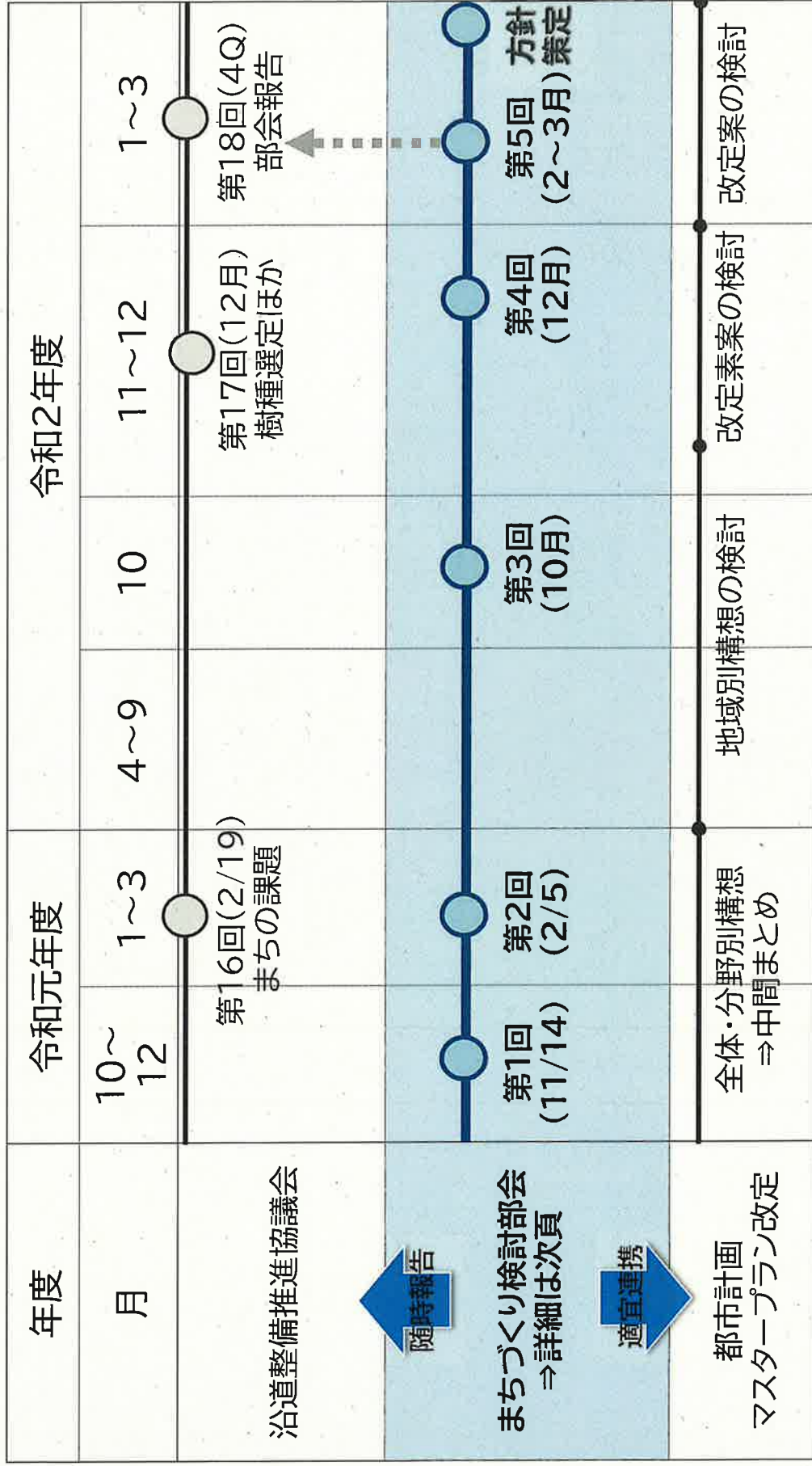
1. 開 会
2. これまでの振り返りとまちづくり方針について
  - まちづくり方針策定の目的と位置付け・まちづくり方針の構成の確認
  - 検討部会スケジュール・進め方の確認
  - 前回(第2回)議事要旨の確認
  - ウィズコロナ・アフターコロナを踏まえたまちづくりの論点
3. まちづくりの検討
  - 分野別のまちづくりの視点(前回(第2回)のまとめ 分野①~③)
    - ①住環境・コミュニティ、②緑・水辺・広場、③道路・交通
  - 分野別のまちづくりの検討
    - ④景観・街並み
    - ⑤防災・安全安心
    - ⑥環境負荷の低減
  - まちづくり方針図(全体方針図)の検討
4. その他

.....

#### 【配付資料】

- ・ 次第
- ・ 席次表
- ・ 資料1-1 神田警察通り周辺地域まちづくり方針(仮称)策定の目的と位置付け
- ・ 資料1-2 神田警察通り周辺地域まちづくり方針(仮称)の構成(案)
- ・ 資料2 まちづくり検討部会の年間スケジュール(案)・進め方(案)
- ・ 資料3 第2回 神田警察通り周辺まちづくり検討部会 議事要旨
- ・ 資料4 ウィズコロナ・アフターコロナを踏まえたまちづくりの論点
- ・ 資料5 分野別のまちづくりの視点 第2回部会のまとめ
- ・ 資料6 分野別のまちづくりの検討
- ・ 資料7 神田警察通り周辺地域の全体方針図(案)

■ 令和2年度スケジュール (案) ⇒ 今年度末のまちづくり方針 (仮称) 策定を目指す



※新型コロナウイルス感染症の状況により、スケジュールは必要に応じ適宜見直し

# まちづくり検討部会の進め方（案）

第2回

## 分野①～③検討

- ① 住環境・コミュニティ
- ② 緑・水辺・広場
- ③ 道路・交通

第3回

## 分野①～③ 視点まとめ

## 分野④～⑥検討

- ④ 景観・街並み
- ⑤ 防災・安心安全
- ⑥ 環境負荷低減

## 全体方針図検討

- 全体方針確認
- 方針図イメージ確認

第4回

## 分野④～⑥ 視点まとめ

## 全体方針図まとめ

意見の反映

## 詳細方針図検討

- 掲載情報の検討
- 方針図イメージ確認

## 方針実現のための 仕組みの検討

- 整備内容等を実現するための仕組み・視点
- 神田らしい活動・営みの継承に着目した仕組み

第5回

## 詳細方針図まとめ

意見の反映

意見の反映  
**方針実現のための  
 仕組み・視点のまとめ**  
 ※具体化に向けた次年度以降の課題の確認

# 神田警察通り周辺地域まちづくり方針（仮称）の策定

分野別の視点

全体方針図

詳細方針図

仕組み・視点

第3回 神田警察通り周辺まちづくり検討部会 席次表

R2. 10. 23(金)

(敬称略)

	司町一丁目町会 坂井 重正	学識経験者 三谷 八寿子	学識経験者 中島 伸	学識経験者 中道 久美子	
多町一丁目町会 藤田 光春					錦町一丁目町会 藤井 城
内神田旭町々会 宮田 保美					神田錦町二丁目町会 丸山 幹雄
神田鍛冶三会町会 植村 宣三					錦町三丁目 第一町会 堀井 市朗
内神田鎌倉町会 田熊 清徳					司町二丁目町会 森田 達弥
千代田区 景観・都市計画課長 印出井 一美					千代田区 道路公園課長 谷田部 継司
千代田区 まちづくり担当部長 加島 津世志					千代田区 基盤整備計画 担当課長 須貝 誠一
千代田区 神田地域まちづくり 担当課長 神原 佳弘					千代田区 神田公園出張所長 猿渡 裕司
UR都市機構					千代田区 神保町出張所長 武笠 真由美
UR都市機構	事務局 地域まちづくり課長 佐藤 武男	事務局	事務局		

UR都市機構	UR都市機構
傍聴席	傍聴席
傍聴席	傍聴席

事務局	事務局
傍聴席	傍聴席
傍聴席	傍聴席

扉

扉

入口

受付

神田警察通り周辺地域のまちづくりの経緯

○ 神田警察通り沿道まちづくり検討委員会：H22.3～H23.9

- 【委員】 地元12町会、商店街振興組合、観光協会、千代田区  
 【検討内容】  
 ・沿道の魅力と特性、課題  
 ・沿道のまちづくりの目標と将来イメージ  
 ・整備構想実現に向けた今後の取り組み

○ 神田警察通り沿道整備推進協議会：H23.9～

- 【委員】 学識経験者、地元13町会、商店街振興組合、観光協会、千代田区  
 【検討内容】  
 ・整備構想の実現に向けた沿道におけるまちづくりの取り組み方  
 ・各ゾーンにおけるまちづくりのイメージ  
 ・神田警察通りの道路整備について

◇ 神田警察通り沿道賑わいガイドライン策定検討部会  
 H24.5～H25.3

- 【委員】 学識経験者、専門家、千代田区  
 【検討内容】  
 ・沿道の賑わい創出に関すること  
 ・沿道のまちづくり方針  
 ・道路整備のガイドライン

◇ 神田警察通り沿道エリアマネジメント専門部会  
 H25.9～H27.3

- 【委員】 学識経験者、専門家、沿道地権者（事業者）、千代田区  
 【検討内容】  
 ・エリアマネジメントの事例研究  
 ・取組みの提案

より広い周辺地域を含めたまちづくりの検討

◇ 神田警察通り周辺まちづくり検討部会  
 R1.11～R2予定

- 【委員】 学識経験者、地元町会、千代田区  
 【検討内容】  
 ・地域の現状と課題  
 ・分野別のまちづくり/ゾーン別のまちづくり  
 ・エリアマネジメントの検討  
 ・まちの将来像

神田警察通り周辺地域のまちづくりの指針

■ 神田警察通り沿道まちづくり整備構想：H23.6

■ まちづくりの目標

つなぐまち神田

「人をつなぐ」「まちをつなぐ」「歴史をつなぐ」「文化をつなぐ」「緑をつなぐ」

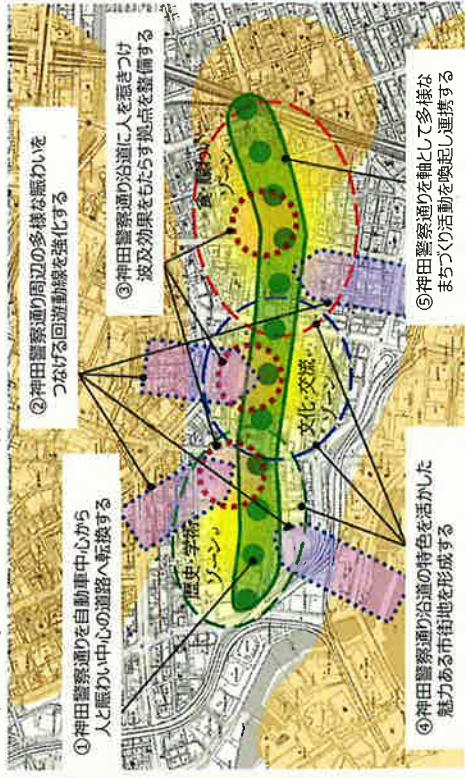
■ まちの目指すべき将来イメージ

神田警察通りの整備をきっかけに魅力のあるまちに変えることで、働く人・住む人を増やし、内側から活力を取り戻す

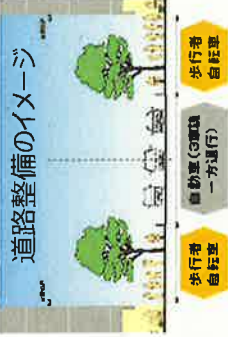
内側から活力を取り戻すとともに、まちの外側から人々を呼び込み、まちのにぎわい・活性化を図る

■ 神田警察通り沿道賑わいガイドライン：H25.3

■ 神田警察通りの整備方針、沿道のまちづくりの方針



沿道の賑わい創出等に資する  
**神田警察通り沿道の整備**



自動車中心から人と賑わい中心の道路へ  
 ・車道4車線→3車線  
 ・歩道の拡幅  
 ・自転車走行空間の整備

■ 神田警察通り周辺地域まちづくり方針（仮称）  
 <今回策定>

1. まちづくり方針策定の目的と位置付け
  2. 神田警察通り周辺地域の現状とまちづくりの視点
  3. 神田警察通り周辺地域のまちづくり方針
- ⇒まちづくり方針の構成案は、資料1-2のとおり

地域の具体的まちづくり方針として運用  
 ↓  
 方針に沿って  
**まちづくりを実施**

## 1. まちづくり方針策定の目的と位置付け

策定の目的、上位計画等既存のまちづくりの考え方との関係

## 2. 神田警察通り周辺地域の現状とまちづくりの視点 → 第1～3回部会で検討

6つの分野における神田警察通り周辺地域の現状（課題・魅力）

6つの分野における神田警察通り周辺地域のまちづくりの視点

## 3. 神田警察通り周辺地域のまちづくり方針 → 第3～5回部会で検討

### ● 神田警察通り周辺地域の全体方針図

神田警察通り周辺地域内の連携、隣接地域との連携により「つなぐまち神田」を実現するためのまちづくりの指針となる方針図

### ● 神田警察通り周辺地域の詳細方針図

「つなぐまち神田」を実現するために  
地域のニーズに細やかに応える整備内容を具体的に示した方針図

### ● 上記方針の実現のための仕組み・視点

詳細方針図に示す整備内容等を実現するための仕組み・視点

神田らしい活動・営みの継承に着目した取り組みや仕組み

## 第2回 神田警察通り周辺まちづくり検討部会 議事要旨

■日時：令和2年2月5日（水）15：30～17：30

■会場：千代田区役所8階 第一委員会室

■出席者：〔学識〕

中島部会長、秋山委員、中道委員、三谷委員

〔地域〕

望月氏（鳥海委員代理）、堀井委員、藤井委員、  
鈴木氏（針谷委員代理）、坂井委員、森田委員、宮田委員、  
藤田委員、植村委員、田熊委員

〔区〕

大森委員、印出井委員、谷田部委員、須貝委員、神原委員、  
佐藤委員（事務局）、地域まちづくり課（事務局）、  
UR都市機構（事務局）

### 1. 開会

○事務局より資料確認

### 2. 前回議事要旨の確認

○事務局より前回議事要旨の確認

### 3. まちづくりの検討について

○今後の検討の進め方について事務局より説明

<意見交換>

特に無し

○まちづくりの分野別の検討についてUR都市機構より説明

① 住環境・コミュニティ

<意見交換>

#### 【委員】

- ・町会活動をホームページ等で公開しているが、反応する人は子育て家庭の人か、企業からの問い合わせが多い。町会員の半分が企業の方。マンションのあり方に根本的問題がある。住宅附置義務で建ったマンションは投資目的のマンションが多く、マンション自体にコミュニティがないため、地元と交わることが困難。単に住民を増やせばいいという問題でもない。抜本的な対策が必要な時期にきている。誰が住んでいるかわからないような投資用マンションが特に多町二丁目では多くなっている。他の地区に住んでいるが神田で商売をやっているような職住近接の旧住民スタイルの方の地元意識が高い。

#### 【区】

- ・住宅附置義務自体は見直しをしている。数から質へ、方針転換をしてきた。20年前人口が低下したことから住機能誘導の地区計画を制定した経緯もある。その時点での地域の将来像は低層部には業務機能、上に人が住むというにぎわいと住環境が調和した形をイメージしていたが、現実には住宅のみのマンションがいくつか見られるようになった。比較的敷地が狭く、1階の低層部に人気を感じられない、マンションの中で交流するスペースがない、といった状況になっている。都市マス改定の議論の中では、地区計画のあり方の方向転換を図っており、コミュニティの面も含めてハードソフト両面で議論している。

#### 【部会長】

- ・まちづくり部会で都市の将来像を考えるにあたり、地区計画の在り方を念頭に議論していくべきかについて事務局はどう考えているか。

#### 【事務局】

- ・地区計画の変更や都市マスの地域別まちづくりに入れ込んでいくことも視野に入れて検討していきたいと思っている。

#### 【区】

- ・都市マスでは都市計画の分野における住宅誘導の在り方を方向転換している。地区計画見直しの方向はこういった場で議論し、神田警察通り周辺における方向性をまとめられるといいと思う。

#### 【委員】

- ・内神田二丁目の地区計画が神田駅西口再開発とバッティングしている。地区計画が実現できないから大規模な再開発となった。やはり大規模にやらないと有効に使えない。地権者用の住宅とグレードの高い高級層用が分かれており、神田に住み続けたい人が住めるようになっている。地区計画はもう無理だと思う。室町テラスは土日でも人がすごい。人が神田まで流れない。

#### 【事務局】

- ・再開発を否定している訳ではない。神田を広いエリアで考えた際に、駅の近くで担うべきこと、離れたところで担うべきことがある。神田らしさを継続できることが根っこにあり、それを踏まえたものを考えていきたいと思っている。神田らしさを継承していけることが一番大切だと思っている。

#### 【委員】

- ・ワテラスのエリマネに関わることになった。周辺の町会や学生も一緒になった広域的なエリマネになっている。町会はハードルが高いが、エリマネのようなゆるやかな組織があるといい。

#### 【委員】

- ・町会がベースのエリマネに長く関わっているが、町会とは別に NPO がある形だが、元からいる人たちがコアにならないとまとまらない。町会がこれからどういう組織になっていくかが重要。
- ・神田らしさとは何かという話がやはりある。神田のまちの成り立ちを考える



と、大丸有のような大規模な再開発とは少し違うかもしれない。再開発を否定しないということは、今までとは異なるものを飲み込むという形をとるのか、それともヒューマンスケール、通りを大事にしていくことを盛り込んでいくのか。場所によって違う神田らしさをどのように明確化することができるかを、行政計画ではなくて、きめ細かくこういった場所で議論していくことが重要。

#### 【委員】

- ・親と子ども夫婦で住んでいる人がほぼ0%。昔は地元で育ち、親と同居して町会に入り、神田らしさを学校や地域で教わってきた。今住んでいる人が神田らしさを求めるのか。地域の活動に参加するかはマンション住民の自由。清掃活動などを通して、神田に対するプライドが育まれる。
- ・今は男性の半分が独身、そういう社会。個々の地域でまちの在り方が違ってくる。電大の再開発には住居がなく、オフィス棟のみ。そういった再開発が進んでいることを念頭にマスタープランを考えてもらいたい。

#### 【委員】

- ・神田は地域の中心が学校だった。千代田区は教育のまちと昔は言っていた。今は教育を放棄している。
- ・今はエレベータがないと入居しないが、そのために、また建て替えることは非常に難しい。西口みたいな再開発なのかといたら違うと思う。デベロッパー中心の再開発では神田らしさは残らない。100-150坪くらいの中規模なビルにまとめ、共同で建てることに区がもっと関わるべきだが、そういったことがないため、デベロッパーに頼るしかない。計画だけでなく区ももっと関わるべき。

#### 【事務局】

- ・再開発だけではなく、個別の建て替え、共同化の支援を行なっているところもあるが、それらをばらばらにやると決していいまちになっていかない。神田のまちを見据えてどういったまちにしたらいいのかを話し合っていきたい。行政として支援できることは支援していくが、全て行政がするわけではなく、役割によって変わってくるところもある。なんでもかんでも再開発というわけでない。

#### 【部会長】

- ・コミュニティの問題はしっかり議論していくべき。神田全てを一発で語りきるのには難しい。大規模再開発、個別建替えなどがあり、見方や考え方が違うエリアの方々が集まって議論している。今日の資料のように千代田区全体や神田公園地域といった総括的なデータに基づいて神田らしさを議論すると、どの地域でも共通するような答えを出す意見しかでない。求められていることはもう少し小さい範囲での議論。6つのテーマで議論した後は、個別の3つのゾーンでまちの在り方を考えるべき。
- ・地区計画の方針転換は行政側からすると非常に勇気がいる作業。住民側の日常的な思いとして意見を出してもらった方が、行政側も動きやすい。

## ② 緑・水辺・広場

### <意見交換>

#### 【委員】

- ・錦町地区は再開発が進んで緑が増える。道路を一つ無くして公園を作った。新虎通りと同じように東京都の条例を活用し、道路の一部がオープンテラスのようになっているが、お店のものを買わないと入れない、一般の人が活用しにくいようになってしまうと本末転倒になる。緑が増えるのはいいが、誰でも入れるようなオープンスペースをつくってほしい。

#### 【事務局】

- ・場所によって担うべきことも違うので、そういった議論をしていきたい。

#### 【部会長】

- ・広場の使い方がかなり整理されてきた。ソラシティの公開空地の使い方やワテラスの事例もある。どういう広場があるといいか、地元の要望がまとまり、開発側や行政に認知されていくとよいと思う。

#### 【委員】

- ・神田は戦後にできてきたまちではない。客観的に見れば緑はないが、町会の皆さんはどんな場所で遊んでいたのか。路地で遊ぶのが普通のところもある。公園が無いことをネガティブにとらえるのかどうか聞いてみたい。

#### 【委員】

- ・路地で遊ぶことが多く、わざわざ神田公園までは行かない。

#### 【部会長】

- ・自動車交通が主体となったことで、広場や公園が必要となったが、一方で道路を人の場にしていこうという動きもある。道路交通の話と合わせて広場も議論したらどうか。

## ③ 道路・交通

### <意見交換>

#### 【委員】

- ・平成20年の調査資料だが、まちが激変している。

#### 【事務局】

- ・10年ごとの調査で平成30年度版の詳細がまだ出ていない。

#### 【委員】

- ・靖国通りもずっと掃除を行っているが、1階にカフェなどができると立て看板が増える。たちごっこで無くならない。テラススクエアのような大規模再開発の場合は敷地内に看板を出すのが、靖国通りのようなところでは中小ビルの1階店舗や裏通りの店舗が看板を出してしまう。喫煙問題もそうだが、歩きやすい空間をつくるためにはどうしたらいいのか、テナントへの周知も含めて考えていただきたい。

#### 【委員】

- ・共立女子大学に勤務しているが、大学の北側の道路は、車を使っている人の割合よりも歩道を使っている人の割合が圧倒的に多いが、空間としては車の方が多い。歩きやすい空間、バリアフリーなどの観点からも改善してほしい。

#### 【部会長】

- ・ニューヨークのタイムズスクエアが自動車道路を歩行者道路に切り替えた。車と人の利用数の割合と空間の量の割合をフェアにするべきという発想。そういう事例もある。利用実態とあわせて考えていくべき。

#### 【区】

- ・千代田区でも道路整備方針をたて、歩道拡幅を考えている。幅員が11m超えると歩道を設置できる。車と人の割合を考えていくと歩行者専用道路になることもありうる。

#### 【委員】

- ・歩道拡幅はいつできるのか。
- ・問題は美土代町の交差点から先。とにかく車椅子が通るような歩道にしてほしい。開発をすると神田に住んでいる人がいなくなり、神田らしさがなくなる。小川町のビルの事例では住んでいる人が上の階に住んだことで、神田らしさが残った。地元の人ができるだけ出て行かないようにすれば神田らしさは自然と残る。
- ・歩道の整備は美土代町から神田駅の間を優先的にやって頂きたい。

#### 【区】

- ・共立学園の先は街路樹の問題があって止まっているが、今般アンケートを実施したところ。集計が完了したので、今度の協議会の中で議論する。予算にも組み込んでおり、認定されるかはわからないが、区の方針として来年度着手することは決まった。

#### 【委員】

- ・私事による来街者について、周りの地域と比べると少ないがそれでも割合としては多い。来訪者の割合が圧倒的に多い。どこからきているかを分析することで、動線としてどこの通りを整備したらいいか、どの通りを歩行者優先とすればよいかもわかる。来訪者の視点も重要。

#### 【委員】

- ・外堀通りは都道だが車椅子が通れないぐらい道が悪い。神田警察通りがよくなっても、そこへ行く動線の道路が悪いと意味がない。窓口を区にして都へ話してもらえないか。

#### 【委員】

- ・狭い通りにわざわざ植え込みをつくらなくてもよかった。車道にはみでているものもある。

#### 【部会長】

- ・今は気づいた人が個別で相談に行く状況。窓口が一元化していない。地域の側で意思を作っていく場が必要になってきている。区も個別の部署では対応しきれないところもある。地元の意見をまとめ、決めていくような組織がいる。

**【委員】**

- ・歩きたくなるまちは「道路・交通のイメージ」の4点が効いてくる。パーキングメータの話と歩道拡幅は裏腹になる。路上駐車の使用方を地区別に深掘りしておく必要があるのではないか。

**4. その他**

○神田まちづくり懇談会について部会長より説明

○次回の案内

**【事務局】**

- ・各地域に特化して掘り下げた形での議論が必要。まちの特色ももう少し掘り下げて検討することを考えている。次回は3月下旬か4月上旬に開催したい。

以 上

## ウィズコロナ・アフターコロナを踏まえたまちづくりの論点

(都市マスタ検討部会等各種委員、地域の有識者等からのヒアリング及び国土交通省ヒアリングからの論点抽出)

## 【総論】

- 都市の存在意義、都市機能の集積の必要性は大きく変わらない。
- 新型コロナ危機を踏まえ、集積の”平準化“や都心・郊外・地方の役割分担等検討が必要。
- ウィズ・アフターコロナの面でも都市の国際競争力強化の観点や、ウォーカブルな（居心地の良く歩きたくなるまちなか）都市づくり、課題横断的に都市の生活の質を向上するスマートシティ推進に取組む大きな方向性には変わりはない。

## 【都市の機能等】

- 生活の質は、住む人と働く人等では異なるため、「職住一体」「職住近接」でのニーズを解き明かしていくことが大切。
- オフィス・住宅の量で成長する都市から、歴史・文化も含め質・個性で価値を創出し発展する都市になる必要性。（都市機能の量的集積から高度化・多様化）
- リモートワーク（職・学）の経験等を経て、大都市においても良好な居住環境の整備の必要性が高まり、働く場・学ぶ場と居住環境の融合が起こるのではないか。
- 国際競争力を向上させるため、クリエイティブな人材が家族とともに快適に過ごせる居住環境や教育機能、居心地の良い交流・滞在空間やゆとりあるパブリックスペースに対するニーズが高まる。

## 【都市の機能等】

- ・お濠や日本橋川、神田川など都心における水と緑は、公共空間としての重要性が一層高まり、今後、水辺と連携し、水辺を活かす都市の実現が必要。
- ・癒し・レクレーション・ワークプレイス・防災・温暖化対策等、緑の多機能性に着目した「グリーンインフラ」の効果を戦略的に高めていくことが必要。
- ・公園などの緑やオープンスペースは、従来の役割に加え、コロナ禍における帰宅困難者対策など、災害等に対応するためのバックアップ機能を果たすなど、今後、都市の冗長性の確保の観点から、どのような存在を評価するかも重要になると考えられる。
- ・避難所の過密を避けるため、公的避難所以外の公共施設、民間施設、ゆとり空間など、多様な避難環境の確保が必要。
- ・三密回避の視点から、道路などの公共空間を柔軟に使い、密になりがちな建築との連携が必要。併せて、建物低層部の魅力の創出に向けた取り組みが必要。
- ・歩行空間の整備は、従来からのバリアフリーや快適性の向上等だけではなく、感染症の拡大も想定し、フィジカルディスタンスの確保も念頭に、適切な幅や密度の確保等の新しい街路空間の考え方を取り入れていく必要がある。
- ・狭い道路についても、安全な使い方、賑わい創出について取り組む必要がある。
- ・公共交通機関を補完・連携するウォークアブルな環境や、自転車・シェアモビリティなど、多様な移動手段の確保や自転車が利用しやすい環境整備が必要。
- ・大都市の主要な交通結節点では、憩いや生活の潤いに必要なオープンスペース、商業施設等の都市機能を提供する拠点として、「駅まち」空間を整備することが必要。

第2回神田警察通り周辺まちづくり検討部会 2020.2.5開催

① 住環境・コミュニティ

- 町会活動をホームページ等で公開しているが、反応する人は子育ての家庭の人か、企業からの問い合わせが多い。マンションの在り方に根本的な問題がある。特に多町二丁目では投資目的のマンションが多く、**住民が増え、マンションコミュニティがなく地元と交わることが困難。神田に住まず神田で商売している人の方が地元意識が高い。**
- 内神田2丁目の地区計画が神田駅西口再開発とバッティングしている。地区計画が実現できないから大規模な再開発となった。やはり大規模にやらないと有効に使えない。地区計画はもう無理だと思う。
- **町会はハードルが高いので、エリアのようなゆるやかな組織があるといい。**
- **NPO組織やエリア団体ができても、元からいる人たちがコアにならないとまらない。町会がこれからどう組織になっていくかが重要。**
- **神田らしさとは何かという話がやはりある。神田のまちの成り立ちを考え、大丸有のような大規模な再開発とは少し違うかもしれない。場所によって違う神田らしさをどのように明確化することができるかを、行政計画ではなく、きめ細かくこうした場所でも議論していくことが重要。**
- 親と子供夫婦で住んでいる人がほぼ0%。昔は地元で育ち、親と同居して町会に入り、神田らしさを学校や地域で教わってきた。今住んでいる人が神田らしさを求めるのか。**地域の活動に参加する人はマンション住民の自由。清掃活動などを通して、神田に対するプライドが育まれる。**
- 電大の再開発には住居がなく、オフィス棟のみ。そういった再開発が進んでいることを念頭にマスタープランを考えると、神田に育ってほしい。
- **エレベーターがないと入居しないが、そのためにまた建て替えることは非常に難しい。**
- **100-150坪くらいの中規模なビルにまとめ、共同で建てることに区がもったがかかわるべきだが、そういったことがないためデベロッパーに頼るしかない。**
- **コミュニティの問題はしっかりと議論していくべき。神田全てを一発で語りきるの難しい。**大規模再開発、個別建替えなどがあり、見方や考え方が違うエリアの方々が集まって議論している。今日の資料のように千代田区全体や神田公園地域といった総括的なデータに基づいて神田らしさを議論すると、どの地域でも共通するような答えを出す意見しかでない。求められていることはもう少し小さい範囲での議論。6つのテーマで議論した後は、個別の3つのゾーンでまちの在り方を考えるべき。

神田の現状と課題	まちづくりの視点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな住宅は増え住民数は増加しつつもコミュニティは活性化していない</li> <li>・神田で商売している人も地元意識は高い</li> <li>・神田らしさは場所によって違う。ひとくくりでは語り切れない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神田に関わりのある人々が無理なく連携し、エリアでの活動・営みをつないでいくことが必要</li> <li>・住民はもちろん、新たなコミュニティの担い手を育てること</li> <li>・場所ごとの特性を踏まえた将来像を描くことが必要</li> </ul>

## 分野別のまちづくりの視点 第2回部会のまとめ

### ② 緑・水辺・広場

- 道路の一部がオープンテラスのようになっていても、お店のものを買わないと入れない事例もある。一般の人が活用しにくいようになっている。緑が増えるのはいい、**誰でも入れるようなオープンスペース**をつくってほしい。
- 広場の使い方がかなり整理されてきた。ソラシテイの公開空地の使い方やワテラスの事例もある。**こういう広場があるといい**が、**地元の要望がまとまり、開発側や行政に認知されていくとよいかと思う。**
- 客観的にみれば緑はないが、**路地で遊ぶのが普通のところもある。**公園が無いことをネガティブに捉えるのはどうか。
- 自動車交通が主体となったことで、**広場や公園が必要となったが、一方で道路を人の場にしているという動きもある。**道路交通の話と合わせて広場も議論したらどうか。

神田の現状と課題	まちづくりの視点
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 新しい広場の事例が増えつつある中、その活用の仕方は議論の余地がある</li> <li>• 路地で遊んでいる実態があったり、道路を人の場にしているという動きもある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• まちの人々のための屋外空間をより豊かなものにするための仕組みや手立てが必要</li> <li>• 公共空間、公開空地等それぞれの特性に合わせた使用方を検討することが必要</li> </ul>

新型コロナウイルスを踏まえたこれからのまちづくりの視点



柔軟かつ多様な活用を前提としたパブリックスペースの必要性が高まっている



## 分野別のまちづくりの視点 第2回部会のまとめ

### ③ 道路・交通

- 靖国通りもずっと掃除を行っているが、1階にカフェなどができると立て看板が増える。歩きやすい空間をつくるためにはどうしたらいいのか、テナントへの周知も含めて考えていただきたい。
- 共立女子大学の北側の道路は、車を使っている人の割合が圧倒的に多いが、空間としては車の方が多い。歩きやすい空間、バリアフリーなどの観点からも改善してほしい。
- ニューヨークのタイムスクエアが自動車道路を歩行者道路に切り替えた。車と人の利用数の割合と空間の割合をフェアにするべきという発想。そういう事例もある。利用実態とあわせて考えていくべき。
- 来訪者がどこからきているかを分析することで、動線としてこの通りを整備したらいいか、どの通りを歩行者優先とすればよいかもわかる。来訪者の視点も重要。
- 外堀通りは都道だが車椅子が通れないぐらい道が悪い。神田警察通りがよくなってこそへ行く動線の道路が悪いと意味がない。窓口を区にして都へ話してもらえないか。
- 今は気づいた人が個別で相談に行く状況。窓口が一元化していない。地域の側で意思を作っていく場が必要になってきている。区も個別の部署では対応しきれないところもある。地元の意見をまとめ、決めていくような組織がいる。
- 歩きたくなるまちには「道路・交通のイメージ」の4点(歩車分離、南北に連続した歩行者空間、移動手段の多様化、駐車場の最適化)がきている。パーキングメータの話と歩道幅は裏腹になる。路上駐車を使い方を地区別に深掘りしておく必要があるのではないか。

### 神田の現状と課題

・歩く人にとって安全で快適な空間整備の重要性は高い

### まちづくりの視点

・歩行者空間のさらなる拡充が必要

新型コロナを踏まえたこれからのまちづくりの視点

多様な移動手段の確保の観点から、歩行者、自転車、その他パーソナルモビリティの重要性が増している

# 新型コロナウイルス危機を契機としたまちづくりの方向性の検討について

○ 国土交通省都市局では、新型コロナウイルス危機を踏まえ、今後の都市のあり方どのような変化が起こるのか、今後の都市政策はどうあるべきかについて検討するため、都市再生や都市交通、公園緑地や都市防災のほか、医療、働き方など、様々な分野の有識者に個別ヒアリングを令和2年6～7月で実施。ヒアリング結果を踏まえまたまちづくりの方向性について論点整理を行った。

## ■ご意見をお伺いした方々 ※50音順、敬称略

会田 和子 (株)いわぎテレワークセンター代表取締役  
 秋田 典子 千葉大学大学院園芸学研究所准教授  
 浅見 泰司 東京大学大学院工学系研究科教授  
 東 博暢 (株)日本総合研究所 プリンシパル/ Incubation & Innovation Initiative 代表  
 飯塚 洋史 quod, LLC 共同代表  
 石川 善樹 (公財)Well-being for Planet Earth 代表理事  
 石田 東生 筑波大学名誉教授  
 泉山 墨威 日本大学理工学部助教・(一社)ントノバ共同代表理事  
 市川 宏雄 明治大学名誉教授  
 伊藤 香織 東京理科大学理工学部建築学科教授  
 入山 章栄 早稲田大学大学院経営管理研究科教授  
 岩崎 正夫 まちづくり福井(株)代表取締役社長  
 植松 宏之 (一社)大阪梅田エリアマネジメント代表理事  
 大阪大学コミュニケーションデザインセンター招聘教授  
 梅澤 高明 A.T.カーニー日本法人会長  
 大島 芳彦 (株)ブルースタジオ専務取締役  
 奥森 清喜 (株)日建設計執行役員  
 加藤 孝明 東京大学生産技術研究所教授/社会科学研究所特任教授  
 岸井 隆幸 日本大学理工学部土木工学科特任教授  
 北崎 朋希 筑波大学システム情報系社会工学科非常勤講師  
 苦瀬 博仁 流通経済大学流通情報学部教授  
 久野 譜也 筑波大学人間総合科学学術院教授  
 隈 研吾 建築家、東京大学特別教授・名誉教授  
 越塚 留登 東京大学大学院情報学環教授  
 佐藤 留美 NPO法人Green Connection TOKYO代表理事  
 佐土原 聡 横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院教授  
 島田 智里 ニューヨーク市公園局  
 島原 万丈 (株)LIFULL LIFULL HOME'S 総研所長  
 白鳥 健志 前札幌駅前通まちづくり(株)社長  
 鈴木 亮平 NPO法人urban design partners balloon 理事長  
 清古 愛弓 葛飾区健康部長(葛飾区保健所長兼務)

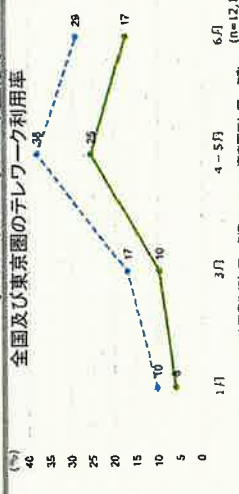
武井 浩三 (一社)不動産テック代表理事  
 谷口 綾子 筑波大学大学院システム情報系教授  
 谷口 守 筑波大学システム情報系社会工学科教授  
 出口 敦 東京大学大学院新領域創成科学研究科教授  
 東浦 亮典 東急(株)執行役員渋谷開発事業部長  
 内藤 廣 建築家、東京大学名誉教授  
 中林 一樹 東京都立大学名誉教授  
 中村 文彦 横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院教授・副学長  
 中山 靖史 (独)都市再生機構都市再生部事業企画室長  
 西浦 定継 明星大学建築学部建築学科教授  
 西村 浩 (株)ワークウエイションズ代表取締役  
 羽藤 英二 東京大学大学院工学系研究科教授  
 馬場 正尊 東北芸術工科大学デザイン工学部建築・環境デザイン学科教授  
 原口 真 MS&AD インタースク総研(株)フェロー  
 福岡 孝則 東京農業大学地域環境科学部造園科学科准教授  
 藤井 健 (株)東急総合研究所顧問  
 藤村 龍至 東京藝術大学大学院美術研究科准教授  
 牧村 和彦 (一財)計量計画研究所理事  
 三浦 詩乃 東京大学大学院新領域創成科学研究科特任助教  
 三輪 律江 横浜国立大学大学院都市文化研究科准教授  
 村木 美貴 千葉大学大学院工学研究科教授  
 村山 顕人 東京大学大学院工学系研究科准教授  
 森本 章倫 早稲田大学理工学術院教授  
 保井 美樹 法政大学現代福祉学部・人間社会研究科教授  
 山崎 亮 (株)studio-L 代表、慶應義塾大学特別招聘教授  
 横澤 大輔 (株)ドワンゴ専務取締役CCO  
 横張 真 東京大学大学院工学系研究科教授  
 四柳 宏 東京大学医学研究所先端医療研究センター教授  
 涌井 史郎 東京都市大学特別教授  
 和田 耕治 国際医療福祉大学医学部公衆衛生学教授  
 和田 真治 南海電気鉄道株式会社執行役員まちづくり創造室長

※他、地方公共団体、都市開発・公共交通・情報通信関係事業者の方々にご協力いただいた。

# 新型コロナウイルス危機を契機としたまちづくりの方向性(概要)(R2.8.31公表)

## ■ 新型コロナウイルス危機を契機とした変化

### テレワークの進展

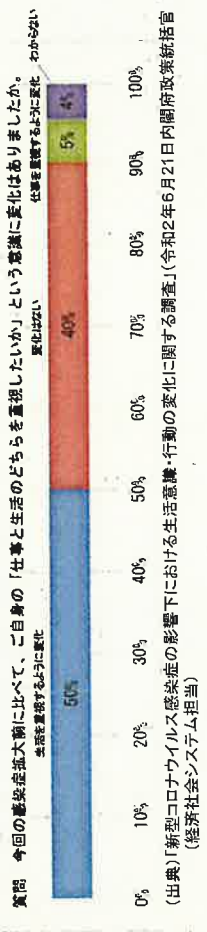


(※)テレワーク利用率: インターネット調査モニターである就業者(自営業主等を含む)に対して、テレワークの利用の有無を調査し、有効回答した者の割合  
(※)東京都: 東京、神奈川、埼玉、千葉  
(出典)「第2回テレワークに関する就業者実態調査報告書」(令和2年8月2日) (公財)MIRA総合研究開発機構

- 職住近接のニーズが高まり、働く場と居住の融合が起こっていく可能性
- オフィス需要に変化の可能性。老朽中小ビルなどは余剰発生の可能性

※なお、感染症対策という面では、ハード面の対応のみならず、日常の手洗い、体調不良の際は休むといったソフト面の対応の徹底が重要

### 生活重視に意識が変化



質問 今回の感染症拡大前と比べて、ご自身の「仕事と生活のどちらを重視したいか」という意識に変化はありましたか。  
(出典)「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」(令和2年6月21日内閣府政策統括官(経済社会システム担当))

- 東京一極集中の是正が進みやすくなる可能性
- ゆとりあるオープンスペースへのニーズの高まり



## 都市の持つ集積のメリットは活かしつつ、「三つの密」の回避、感染拡大防止と経済社会活動の両立を図る新しいまちづくりが必要

### ■ 今後の都市政策の方向性

ヒアリングを踏まえれば、人や機能等を集積させる都市そのものの重要性に変わりはなく、国際競争力強化やウォーカーガブルなまちづくり、コンパクトシティ、スマートシティの推進は引き続き重要。こうした都市政策の推進に当たっては、**新型コロナウイルス危機を契機として生じた変化に対応していくことが必要。**

- 大都市は、**クリエイティブ人材を惹きつける良質なオフィス**、住環境(住宅、オープンスペース、インターナショナルスクール等)、文化・エンタメ機能等を、郊外、地方都市は、住む、働く、憩いといった様々な機能を備えた「**地元生活圏の形成**」を推進
- **大都市、郊外、地方都市それぞれのメリットを活かして魅力を高めていくことが重要**
- **様々なニーズ、変化、リスクに対応できる柔軟性・冗長性を備えた都市**が求められる
- **老朽ストックを更新し、ニューノーマルに対応した機能(住宅、サテライトオフィス等)が提供されるリニューアールを促進**
- 郊外や地方都市でも必要な公共交通サービスが提供されるよう、**まちづくりと一体となった総合的な交通戦略を推進**
- **自転車を利用しやすい環境の一層の整備が必要**

- **避難所の過密を避けるための多様な避難環境の整備**
- **リアルタイムデータ等を活用し、ミクロな空間単位で人の動きを把握して、平時・災害時ともに過密を避けるよう人の行動を誘導**
- **避難所の過密を避けるための多様な避難環境の整備**



良質なオフィス、テレワーク環境の整備



住心地の良いウォーカーガブルな空間の創出



都市空間へのゆとり(オープンスペース)の創出

### ■ 今後の検討の進め方

上記の都市政策の実現に向けた具体的方策を検討するため、**本年秋頃を目途に有識者からなる検討会**を設置し、検討を深める。

# 【論点1】都市(オフィス等の機能や生活圏)の今後のあり方と新しい政策の方向性

## ＜新型コロナ危機を契機に生じた変化＞

- テレワークの進展により、どこでも働ける環境が整い、働く場と居住の場が融合。働くにも住むにも快適な環境、ゆとりあるスペースへのニーズが高まる。
- 東京への一極集中の是正が進みやすくなる可能性。
- 「リアルな場」に求められるものは、偶然の交流や白熱した議論、実体験を伴うもの、文化やエンターテイメントといった、オンラインでは代替しがたい経験を提供する機能が中心に。
- オフィス需要に変化の可能性（変化の程度は両論意見あり）。今後、安心やゆとりが求められる中、老朽化した中小ビルなどの需要が減少し、余剰が発生するおそれ。

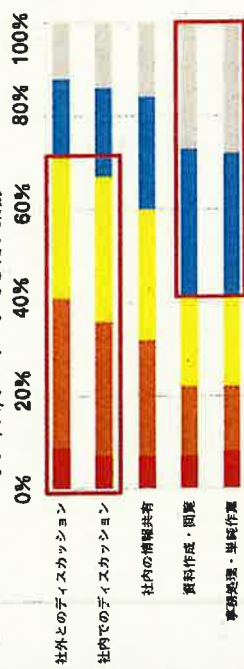
## ＜今後の方向性＞

- 複数の用途が融合した職住近接に対応するまちづくりを進める必要。様々なニーズ、変化、リスクに対応できる柔軟性・冗長性を備えた都市であることが求められる(一定期間の試行、仮設物の設置等も有効)。
- 働く場所・住む場所の選択肢が広がるよう、都市規模の異なる複数の拠点が形成され、役割分担をしていく形が考えられる。
- 大都市は、クリエイティブ人材を惹きつける良質なオフィス・住環境を備え、リアルな場ならではの文化、食等を提供する場として国際競争力を高める必要。
- 郊外、地方都市は、居住の場、働く場、憩いの場といった様々な機能を備えた「地元生活圏」の形成を推進。「育ち」の場となるオープンスペースも重要。
- 老朽ストックのサテライトオフィス等へのリニューアルや、ゆとり空間や高性能な換気機能を備えた良質なオフィスの提供の促進が重要。

テレワークが進展する中でも

約7割の就業者が「ディスプレイカクソンはオフィスで行いたい」と回答

オフィス/テレワークでしたい業務



■ オフィス (対面) でないといけない ■ オフィス (対面) で行いたい  
 ■ できればオフィス (対面) で行いたい ■ できればテレワークで行いたい  
 ■ テレワークで行いたい

(出典) 三菱地所株式会社「15,000 人就業者アンケート」調査 (2020年6月19日～23日)  
 に基づき国土交通省都市局作成

多様なニーズに対応した複合型開発くうめきた二期開発プロジェクト> 住みやすく、働きやすいまちなかの形成<沼津駅周辺総合整備事業>  
 (住宅、オフィス、商業、子育て支援施設、インキュベーション施設、ホテル等)  
 ※提案時点(2018年5月)のイメージであり、今後変更の可能性あり



提供:うめきた2期地区開発事業者





# 【論点3】 オープンスペースの今後のあり方と新しい政策の方向性

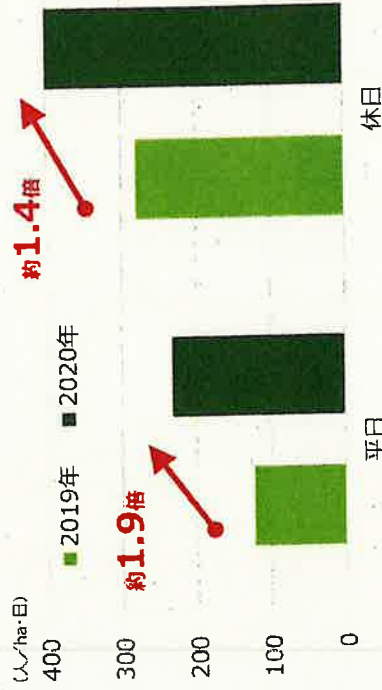
## ＜新型コロナ危機を契機に生じた変化＞

- 自宅で過ごす時間が増え、身近な**自然資源**として、**運動不足の解消・ストレス緩和**の効果が得られる場として、**グリーンインフラ**としての**緑や、オープンスペースの重要性**が再認識。
- 緑とオープンスペースは、テレワーカーの作業場所、フィットネスの場所等**利用形態が多様化**。災害等の非常時に対応するための**バッファ機能**として、**都市の冗長性を確保**する観点からも役割が増大。
- オープンスペースを有効に活用するため、**エリアマネジメント**の中心的な存在として、**信頼できる中間支援組織の存在、効果的に活用するための人材育成の必要性**が高まっている。

## ＜今後の方向性＞

- **グリーンインフラ**としての**効果を戦略的に高めていく**ことが必要。
- **ウォークアブルな空間とオープンスペースを組み合わせ**てネットワークを形成することが重要。
- 街路空間、公園・緑地、水辺空間、都市農地、都市農地、民間空地など、**まちに存在する様々な緑とオープンスペースについて**、テレワーク、テイクアウト販売への活用といった地域の多様なニーズに応じて**柔軟に活用**することが必要。
- 災害・感染症等のリスクに対応するためにも、**いざというときに利用できる緑とオープンスペースの整備**が重要。
- イベントだけでなく、比較的長期にわたる日常的な活用（例：オープンテラスの設置）など、**柔軟かつ多様なオープンスペースの活用の試行**、これを支える**人材育成、ノウハウの展開等**が必要。

3月の公園利用者数は前年比で増加



(出典) 都立狹山公園、都立武蔵国分寺公園、都立野川公園のデータから国土交通省都市局作成

屋外でのオフィス空間設置実験



住宅団地へのキッチンカー提供実験



(出典) 神戸市HP

駐車場跡地をリノベーションした屋外ヨガ広場



(出典) コーヤートHIROO

# 【論点4】 データ・新技術等を活用したまちづくりの今後のあり方と新しい政策の方向性

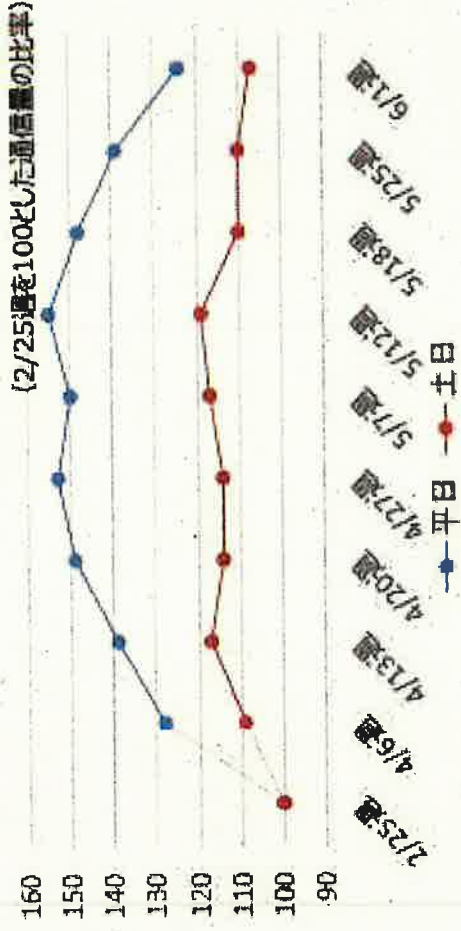
## ＜新型コロナ危機を契機に生じた変化＞

- 新型コロナ危機によりデジタル化が急速に進み、**フィジカル空間に加え、新たにデジタル空間が大いに着目**されるようになった。
- フィジカル空間が果たしてきた**都市機能の一部はデジタル空間へ移行**すると考えられる。
- **データを活用した都市の密度のコントロール**に対するニーズの高まり。特に、非常時におけるデータの利活用に対する議論の素地が生まれつつあると考えられる。

## ＜今後の方向性＞

- 市民生活、都市活動等の面での**データ・新技術等の活用に向けた取組をペースアップ**させる必要。
- 過密対策等には、パーソナルデータ等の活用が重要。市民等の理解を得つつ、**市民主体のデータ・新技術等を活用した取組を推進**する必要。
- 人流・滞在データで**ミクロな空間単位で人の動きを把握**することで、**過密を避けるような人の行動を誘導**する取組が重要。

昼間通信量の推移 (OCN)



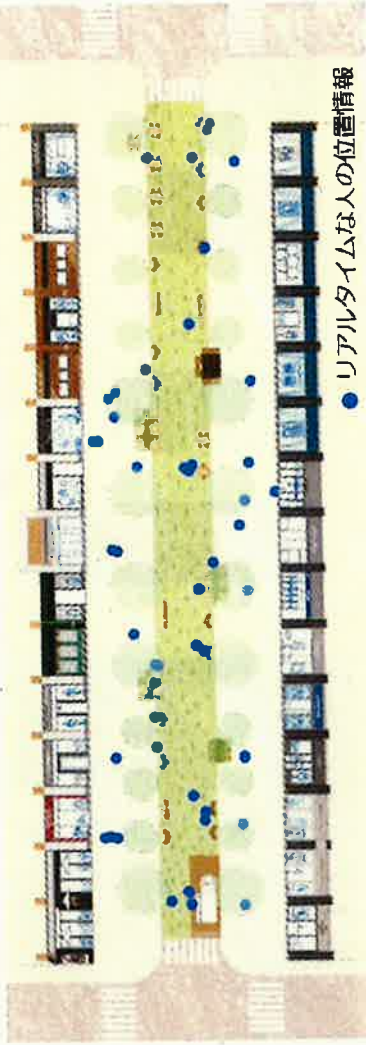
(出典)「新型コロナウイルス感染症の影響下におけるインターネットトラフィックの推移について(総務省)」

リアルタイム人流データのHP掲載(大丸有地区)

**LIVE**

## Cozy Green Parkの今の様子

3Dレーザーセンサーを用いて人々の動きを計測し、リアルタイムに配信しています。



● リアルタイムな人の位置情報

(出典)「Marunouchi Street Park2020」HP,令和2年8月7日11時30分時点

# 【論点5】複合災害への対応等を踏まえた事前防災まちづくりの新しい政策の方向性

## ＜新型コロナ危機を契機に生じた変化＞

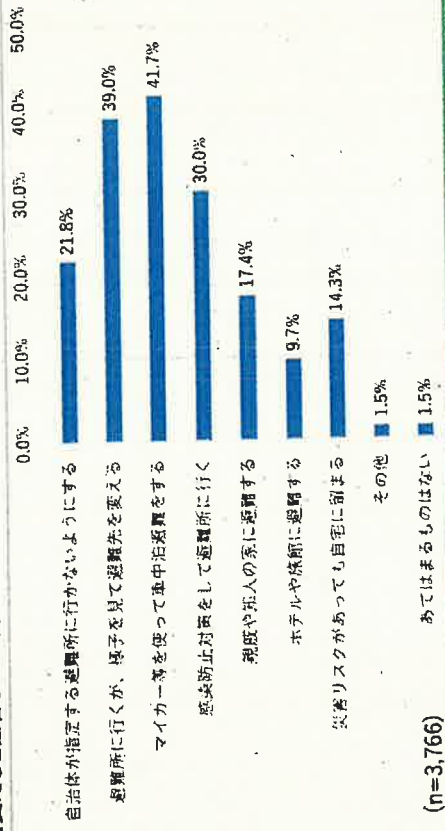
- 新型コロナ危機下で自然災害が発生すると「複合災害」に。自然災害対応と感染症対策という二つの対応をしなければならなかった。
- 最近の災害においても、避難者が避難所で感染しないよう、感染リスク抑制と避難を両立させる避難所運営を行うなど、自治体の初動対応にも変化が生じた。

## ＜今後の方向性＞

- 避難所の過密を避けるため、公的避難所以外の公共施設、民間施設、ゆとり空間など多様な避難環境の確保が必要。
- 引き続き、適切な土地利用規制や誘導等を通じた居住の移転、より安全な宅地の形成等を進めることも重要。
- 災害時に過密を避けるため、平時におけるデータを活用した取組を災害時においても活用することが重要。

## 新型コロナウイルスの感染拡大が避難行動に与える影響に関する調査結果

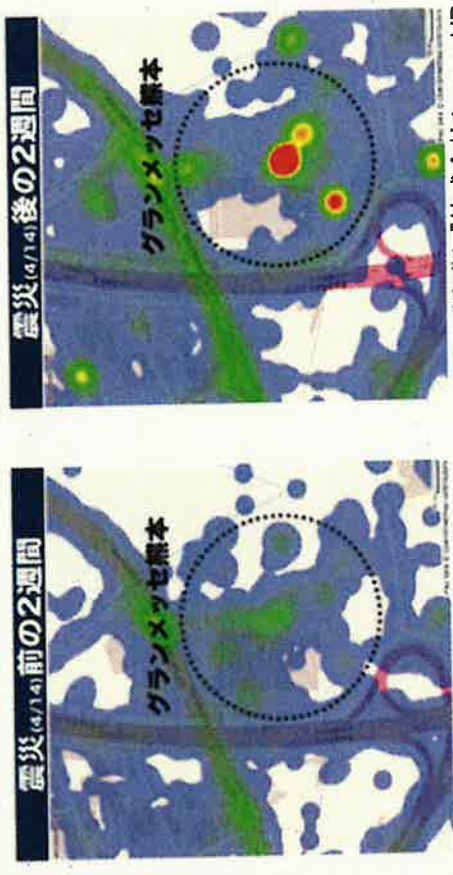
新型コロナウイルスの感染拡大が避難行動に影響すると回答した人(3766人)のうち、41.7%はマイカー等を使って車中泊避難をするなど、39.0%は避難所の様子を見て避難先を変えると回答している。



(n=3,766)

災害時の人口密度の可視化の事例  
(本来は避難所ではない駐車場に避難者が集まっていることを可視化)

## 益城町 - 震災当時指定外避難所 - 震災前後2週間



(出典)「株式会社Agoop」HP



# 新型コロナウイルス危機を契機としたまちづくりの方向性(イメージ)



国土交通省

- 人々の働く場所・住む場所の選択肢を広げるとともに、大都市・郊外・地方都市と、規模の異なる複数の拠点の拠点が形成され、役割分担をしていく形が考えられる。
- 複数の用途が融合した職住近接に対応し、様々なニーズ、変化に柔軟に対応できるようまちづくりが必要。

